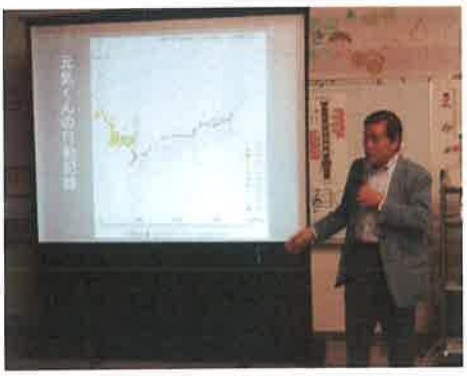
平成３０年５月１４日（月）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第１回みーもスクールとして、野鳥の生態から森林保全の大切さの話と学校周辺で野鳥観察を行いました。

西小学校は校区内にコウノトリの巣作り場所があり全校で大切に見守っています。日本野鳥の会の副会長であった佐藤氏に森の大切さや、昔から日本の文化に取り入れられている鳥との関係をお話して頂きました。

コウノトリの生息範囲や習性・巣作り・他の鳥との違いなど学びました。



望遠鏡を使って鳥の観察をしました。双眼鏡の使い方の学習をした後、双眼鏡を使って森の様子（緑色の濃さ）から特徴を発表し合い、針葉樹や広葉樹の違いについて考えました。

毎年設置している巣箱を回収し、鳥が使用したかどうかを確認して、どんな鳥が使うのか話をして頂きました。貴重なコウノトリの羽を観察し、体のどの部分の羽かについても話をして頂き、他の鳥の羽との比較もしました。

平成３０年６月４日（月）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第２回みーもスクールとして、森林作業体験「学校林で間伐、枝打ち体験」を実施しました。

導入として間伐の大切さについてスクリーンを見ながら学習しました。

学校林内に入る前に、注意事項を聞いてから、２班に分かれて学校林に入り、間伐の体験や、枝打ち体験を行いました。１本目は事前に準備しておいた木をロープで引っ張って倒しました。

２本目は、チームで木立の様子からどの木を切ったら安全に、最も間伐の効果がでるか？伐木を選定し、協力して仕掛けを作り、指導者がチェンソーで切れ込みを入れ、ロープを引っ張って倒しました。

最後に枝をノコで切って、いい汗をかきました。
暗かった学校林に光がさし込み、明るくなりました。

平成３０年７月１０日（火）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第３回みーもスクールとして、「間伐材の和紙づくり体験」を実施しました。前回には、間伐体験をしており、その流れで本日の紙漉きとなりました。

昔から作られている和紙とはどんなものか。島根で作られる和紙について、和紙作りの工程について等、和紙作りの導入編として話をし、すべての工程を体験してもらいました。

タブの葉をちぎってミキサーにかけ、ネリ作りをしてネバネバの感触を体験しました。

３時間にて準備したヒノキの甘皮を木槌で叩いて繊維を細かくし、ハサミで長さを１cm位の短さに切りました。ネリとハサミで切った甘皮をミキサーにかけ、しっかり混ぜます。

漉き桶にどろどろの材料と水を混ぜて、漉くのに丁度良い濃さに調整しました。

漉き枠で溜め漉きをして、水をしっかり切ってから布に移し、アイロンをかけて水分をとばし、段ボールに移しました。しっかり乾くまで教室で保管する事になりました。

切手を貼ってハガキとして使用できますが、もったいないので、出すなら自分宛てにするそうです。

平成３０年９月２６日（水）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第４回みーもスクールとして学校周辺と学校林の中を使って「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

目隠しをすることによって、五感の内の聴覚と触覚を使うゲームです。日頃いかに目を使って生活しているかがよくわかります。目隠しする事によって聴覚と触覚がとぎすまされます。

自然のものと、人工的に作られたものを目で探すたゲームです。緑の葉や土の色とそっくりの薄いクマのおもちゃは見つけるのが難しいようです。人はよく見ているようで、案外見過ごしているものです。

Ａ４の用紙の中央に自分がいるとして丸を書き、周りから聞こえてくる音を絵で表現するというゲームです。自分の感覚で書くので抽象的な絵になります。音は見たことがないため、絵で表現するのは難しいようですが、一生懸命取り組んでくれました。

みんなで絵を回して他の人の作品を見ましたが、感じた音を線や模様で表したり、鳥や車・人といった形で表現している児童もいました。

平成３０年１０月１５日（月）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第５回みーもスクール、学校林内での樹木学習の指導をしました。

指導者が２人一組になって児童を３班にわけて実施しました。学校林（岩熊の森）には事前に安全確認も含め、紹介する樹木について指導者で話し合いをし、同じように統一して指導できるよう、準備をしました。

学校林内での注意事項をみんなで確認してから探検に出かけました。

「岩熊の森」のテキストを活用しながら、指導者によってはさらに分かり易く説明するため、ゲーム形式を取り入れた人もいました。それぞれ工夫をして頂きました。

食べられる実を味わったり、匂いをかいだり、葉っぱにさわって感触を確かめたりして、木の特徴を紹介しました。名前は覚えにくいものですが、五感で感じたものは覚えているものです。

平成３０年１１月５日（月）、雲南市立西小学校４年生１７名に対して、第６回みーもスクールとして、「島根県の森林の話」と「飾り炭づくりと焼き芋作り」の指導を行いました。

無煙炭火器で焼き芋をするのには時間がかかるため、最初にさつま芋の仕込み作業を全員で行いました。熾火を沢山準備して芋と芋との間を少し開けて並べます。また、無煙炭火器のヘリにつくとその部分の焼きが悪くなる為、ヘリにあたらないように注意して、熾火の上にさつま芋、その上に熾火をかぶせ、またさつま芋。最後にさつま芋が完全に隠れるように熾火をかけて３５分～５０分待ちます。熾火の様子やさつま芋の大きさによってもできあがり時間が異なるので、３０分過ぎに１度中の様子を見て焼けた芋は取り出し、焼けが悪い芋はもう一度熾火の中にもどします。

どのようにして炭ができるのか？について説明をした後、飾り炭にする材料について話をしました。

木の実や竹、葉っぱ等を両側に小さな穴を開けた缶に入れて、燃えている火の中に入れ、煙の色で炭の出来具合を見ます。炭化を途中で止めるため、空気を遮断し缶を急速に水で冷やします。木の実の形のまま炭になっていて驚いたようでした。さつま芋も上手に焼け美味しく頂きました。